

第2次
奥州市バス交通計画

平成26年12月
総務企画部まちづくり推進課

目 次

I 計画の目的	(3)
II 現状と課題	(4)
III バス交通計画	(17)
参考資料	(20)
用語解説、関係法令	(36)

I 計画の目的

平成18年2月に誕生した奥州市は、これからの市政発展をめざすための指針として「奥州市総合計画」を策定し、「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまちづくり」を実現するため、6つの柱を掲げて様々な施策を推進している。

その柱の1つ「豊かな自然と共生する快適で安全なまちづくり」の中に、「利便性の高い公共交通の確保」を掲げ、次の方針で取り組むこととしている。

【施策の基本方針】

急速に進行する少子高齢社会の中で、市民の日常生活の移動手段を確保し、だれもが住み良さを実感でき、安心して暮らせる地域を目指して、長期的に持続可能な地域公共交通を実現します。

この第2次奥州市バス交通計画は、奥州市総合計画の部門別計画として、平成23年2月策定の奥州市バス交通計画を改訂するもので、公共交通対策の充実を図り、上記基本方針を具現化することを目的とする。

II 現状と課題

1 現在のバス交通体系

現在のバス交通体系は、幹線としての民間路線バスと、補完する多様な形態のコミュニティバスの組み合わせで成り立っている。(別紙図面参照)

合併前の旧市町村から引き継いだコミュニティバスについては、懸案であった料金体系を統一して平成25年4月から運用開始し、受益に対する負担の公平性の確保を図ったところである。

しかし、運転免許保有率の上昇や人口減少等により、民間路線バスを含め、年々利用者が減少し、行政負担が増加していることから、長期的な視野に立った総合的な公共交通体系の検討が必要になっている。

2 民間路線バスの現状と課題

(1) 民間路線バスの現状

民間事業者による乗合バスは、長い間公共交通機関の中心であり、市民の日常生活における移動手段として重要な役割を果たしてきている。

しかし、自家用車の普及、過疎化及び少子高齢化の進行等により、バス利用者が年々減少しており、事業者において経営の合理化、路線の変更及び便数の削減等の経営努力をしているが、不採算となっている路線が数多くあり、事業者単独での路線維持が困難な状況となっている。

(2) 民間バス事業者への補助制度

国、県及び市では、地域住民の福祉を確保するため、生活交通路線として必要な路線バスのうち、広域的・幹線的な路線バスの運行の維持を図るための助成措置として、国県又は市県が協調し、発生した赤字額を補填する制度を設けている。

補助の種類	主な補助要件等
共通	・バスの補助事業年度は10月から翌年9月まで
【国】地域公共交通確保維持改善事業	・1日当りの輸送量が15~150人 ※輸送量=平均乗車密度×運行回数 ※平均乗車密度=起点から終点までの平均乗車数
【県】バス運行対策費(国庫との協調補助)	・キロ程が10km以上で複数市町村にまたがるもの ※平成13年3月31日現在の市町村境が基準(既存路線のみ)
【国:1/2、県1/2】	・国で定める広域行政圏の中心市町村への需要に対応して設定されるもの ※この近辺では旧水沢市、旧一関市、北上市 ・運行費用と収益の差額を補助(限度額:運行費用の9/20の額)

地域バス交通等 支援事業(県単補助) 経費の1/2を 県が市へ補助	・主に国県補助の要件割れした路線に適用
	・1日当りの平均乗車密度が4.0人以上
	・県の施設や鉄道駅の存する区域に接続する路線
	・運行費用と収益の差額を補助(限度額:450万円)
奥州市広域生活 路線維持事業(市 単独)	・次に該当する場合に行っている ◇上記2つの制度に該当しない場合 ◇国県補助への付け足しが運行継続の前提となっている場合
	・運行費用と収益の差額を補助
	・路線の確保を目的としているため補助要件はない

(3) 市内運行路線の状況

市内を運行する民間路線は次のとおりとなっている。(ここでいう民間路線とは、民間事業者が独自に運行している路線を指し、後述の廃止路線代替バスは含まない。)

これらの路線はすべて岩手県交通(株)によって運行されており、一部路線を除いていずれも市内各地域から胆沢病院や水沢区の中心市街地に集中する内容となっており、通院、通勤、通学、買い物といった利用者ニーズに対応した運行となっている。

路線の運営について、事業者によって経営努力が行われてはいるものの、水岩線(江刺バスセンター～水沢駅)以外は赤字補填のために何らかの補助が入っており、補助金なしでは現在の路線バスを維持できない状況となっている。

また、岩黒線及び馬留線については、平成24年度から国の補助要件割れとなっているが、「指定被災地」の指定を受け、補助要件の緩和などの特例措置を受けている。「指定被災地」の指定は、平成27年度(運行期間:平成26年10月～平成27年9月)までとなっており、平成28年度以降は国庫補助が受けられなくなる可能性があり、その対応について検討が必要である。

平成25年度補助額(平成24年10月～平成25年9月)

事業者名	路線名	1日の輸送量 (H24)	補助種類:額 (H24)	経路
岩手県交通	水岩線	—	なし	江刺バスセンター～水沢駅
〃	胆沢病院線	31.0人 (34.5人)	国県: 7,417千円 (国県: 10,588千円)	江刺バスセンター～胆沢病院
〃	岩黒線	11.5人 (11.8人)	国県: 4,605千円 (国県: 4,888千円)	江刺バスセンター～北上駅前
〃	国道南線	17.5人 (18.2人)	国県: 10,975千円 (国県: 8,440千円)	水沢車庫～真城～イオン前沢店
〃	国道南線	15.8人 (15.8人)	国県: 7,235千円 (国県: 6,695千円)	水沢車庫～胆沢病院～イオン前沢店
〃	国道南線	46.9人 (41.4人)	国県: 26,626千円 (国県: 20,759千円)	一関駅前～イオン前沢店
〃	馬留線	15.1人 (7.2人)	国県: 10,430千円 (国県: 4,282千円)	水沢駅前～ひめかゆスキー場(胆沢区)

〃	国道北線	19.0人 (18.2人)	国県：12,253千円 (国県：9,534千円)	胆沢病院～県南免許センター
〃	生母線※	4.0人 (4.0人)	市県：1,078千円 (市県：1,039千円)	胆沢病院～生母（前沢区）
〃	桜木団地線※	2.5人 (2.0人)	市単独：1,109千円 (市単独：2,649千円)	江刺バスセンター～六日町・桜木団地 ～胆沢病院
〃	広岡線※	2.0人 (2.0人)	市単独：2,453千円 (市単独：2,395千円)	水沢駅前～上広岡～大畑平（胆沢区）
〃	小山線※	1.5人 (1.5人)	市単独：3,881千円 (市単独：3,693千円)	水沢駅通り～胆沢病院～二ノ台（胆沢区）～
補助額	25年度：国県79,541千円、市県1,078千円、 市単独7,443千円 、合計88,062千円 24年度：国県66,577千円、市県1,039千円、 市単独8,737千円 、合計76,353千円			

※生母線、桜木団地線、広岡線、小山線の人数は、平均乗車密度、

※桜木団地線は、平成25年4月から岩手県交通水沢江刺駅線（廃止路線代替バス）に統合

(4) 課題

今後も利用者の減少が予想される中、市内の民間バス路線において補助要件の境界線上にある路線がいくつかあり、廃止対象路線が発生する可能性が今後も高いことから、利用促進等いかにして路線を維持していくかが課題となっている。

3 廃止路線代替バス、コミュニティバスの現状と課題

(1) 現状

ア 廃止路線代替バス

不採算により廃止となった民間路線バスのうち、地域住民の生活交通手段を確保するため、市が民間事業者に依頼して運行を継続している路線で、民間路線バスと車両や運賃体系等が同じ内容となっている。

もともと不採算を理由に廃止された路線であることから利用者が多くないほか、市で運行する他のコミュニティバスや民間路線バスとルートが重複する箇所もあり、整理が必要と考えられる。

■運行開始：①②平成18年、③平成15年、④平成14年、⑤平成2年

■事業運営：市が民間事業者に事業運営・車両運行を依頼。収支の差額を市が補助する。

■事業者：①～④岩手県交通株式会社、⑤東磐交通株式会社

■運賃体系：距離制（乗車距離に応じて料金が加算される。）

■運賃設定：1乗車につき140円～820円

事業者	路線名	経路	運行回数	25年度利用者 (H24)	25年度補助額 (H24)
岩手県交通	①水沢江刺駅線	江刺バスセンター～胆沢病院	平日 5.5回 土日 4.0回	14,550人 (12,844人)	14,173千円 (14,751千円)
"	②正法寺線	正法寺（水沢区）～胆沢病院	平日 2.5回 土日 2.0回	7,485人 (6,757人)	
"	③大平線	大平（江刺区）～胆沢病院	月～土3.0回 日祝 2.0回	10,049人 (13,974人)	
"	④中野生母線	生母（前沢区）～胆沢病院	月～土3.0回 日祝 2.0回	8,026人 (13,809人)	
東磐交通	⑤前沢線	げいび溪駅前～前沢診療所	平日 3.0回 月木 4.0回	5,752人 (6,318人)	5,152千円 (4,583千円)

イ 水沢コミュニティバス（Zバス）【水沢区内運行】

水沢区内の公共交通空白地帯を解消することを目的に、民間事業者に依頼し、各地区と水沢病院を結ぶ路線を運行している。

年間利用者数は、一部路線を除いて減少傾向である。

■運行開始：平成9年

■事業運営：市が民間事業者に事業運営・車両運行を依頼。収支の差額を市が補助する。

■事業者：早池峰バス株式会社

■運賃体系：ゾーン制（ゾーンを跨いで利用すると料金が加算される。）

■運賃設定：1乗車につき200円～300円

路線名	経路	運行回数	25年度利用者 (H24)	25年度補助額 (H24)
佐倉河線	水沢病院～佐倉河～水沢病院	月～土2.0回	8,810人 (9,539人)	26,352人 (27,952人)
羽田・黒石線	水沢病院～箕輪（黒石）	毎日 4.0回	10,259人 (11,303人)	

見分森線	水沢病院～見分森（水沢南）	月火木金土 3.5回 水 1.0回	4,448人 (3,886人)		
南方線	水沢病院～南方分館（姉体）	月水金3.5回	2,835人 (3,224人)		

ウ 奥州市営バス【江刺区内運行】

旧江刺市では民間事業者の不採算路線を補助金の交付により維持してきたが、補助路線が増加したことから、様々な検討を行った結果、市を運営主体とするバス事業を平成12年に立ち上げた。

運賃体系の統一により他のコミュニティバスとの運賃格差は解消されたが、利用者の少ない路線もあり、運行内容の見直しを検討する必要がある。

- 運行開始：平成12年
- 事業運営：市が所有するバスの運行を民間事業者に委託。市が運行経費を民間事業者に委託料として支払う。
- 事業者：奥州市（事業委託先：早池峰バス株式会社）
- 運賃体系：ゾーン制（ゾーンを跨いで利用すると料金が加算される）
- 運賃設定：1乗車につき200円～500円

路線名	経路	運行回数	25年度 利用者 (H24)	25年度 特別会計繰出金 (H24)
田原根木町線	江刺バスセンター～根木町	平日 3.5回 土 2.5回 日祝 2.0回	4,283人 (5,327人)	72,930千円 (59,061千円)
伊手糶谷線	江刺バスセンター～上伊手～糶谷	平日 3.5回 土日祝2.0回	14,487人 (14,569人)	
伊手口沢線	江刺バスセンター～藤里沢田～伊手・糶谷～口沢 江刺バスセンター～藤里沢田～伊手・糶谷	平日 3.5回 土日祝2.0回	4,142人 (9,415人)	
梁川大岳線	江刺バスセンター～梁川～大岳 江刺バスセンター～梁川～赤部～大岳 江刺バスセンター～梁川	平日 5.0回 土日祝2.0回	12,209人 (15,588人)	
米里重王堂線	江刺バスセンター～重王堂 江刺バスセンター～米里	平日 4.5回 土日祝2.0回	10,686人 (15,610人)	
米里学間沢線	江刺バスセンター～学間沢	平日 3.0回 土 2.5回 日祝 2.0回	9,757人 (9,445人)	
広瀬青谷線 (広瀬行き、西川目行き)	江刺バスセンター～広瀬 江刺バスセンター～西川目	平日 2.0回 土 2.0回	4,267人 (5,048人)	
広瀬青谷線	江刺バスセンター～広瀬～青谷 江刺バスセンター～西川目～広瀬～青谷	平日 4.0回 土日祝2.0回	6,577人 (5,920人)	
田原原体線	江刺バスセンター～醍醐	平日 2.0回 土日祝2.0回	2,450人 (2,210人)	
稲瀬大迫線	江刺バスセンター～大迫	平日 1.5回 土日祝1.5回	1,908人 (2,021人)	

街なか循環線	江刺バスセンター～クリーンパーク	火～日2.0回	2,992人 (6,347人)	
稲瀬・愛宕環状線	江刺バスセンター～江刺バスセンター	月水金2.0回	357人 (528人)	

※路線名や経路、運行回数は平成25年4月1日から変更

エ 前沢バス（ハートバス）【前沢区内運行】

平成10年に前沢診療所を開設した際、診療所を発着場所とし旧前沢町内を循環する町民バスの運行を開始したが、限られた予算の範囲内で運行回数や運行コースの増加といったニーズを満たすため、タクシー車両を活用したきめの細かい交通システム（デマンド交通システム）を平成17年に導入した。

きめの細かい運行を行うハートバスは、高齢の遠距離利用者から大変好評を得ている。しかし、近距離利用者にとっては待ち時間や乗車時間が掛かるうえ民間路線バスより割高となることから、以前運行していた町民バスの復活を望む声もある。

- 運行開始：平成17年
- 事業運営：市が社会福祉協議会に事業運営を依頼。収支の差額を市が補助する。
- 事業者：奥州市社会福祉協議会（運行委託先：株式会社前沢タクシー）
- 運賃体系：定額制
- 運賃設定：1乗車につき300円

路線名	経路	運行回数	25年度利用者 (H24)	25年度補助額 (H24)
—	前沢区内を予約内容により運行	月～金 1日11便	16,325人 (19,619人)	14,500千円 (16,000千円)

オ 衣川コミュニティバス【衣川区内運行】

衣川区内の民間路線バスの廃止に伴い、地域住民の日常生活における移動手段の確保を目的に衣川区北股・南股とイオン前沢店を結ぶ市単独のコミュニティバスの試験運行を平成21年10月から1年間実施した。

平成22年10月からは、路線バス（衣里線）と乗合タクシー（北股線、南股線）を併用して運行している。

【バス車両】

- 運行開始：平成22年
- 事業運営：市が民間事業者に事業運営を依頼。収支の差額を市が補助する。
- 事業者：早池峰バス株式会社
- 運賃体系：ゾーン制（ゾーンを跨いで利用すると料金が加算される）
- 運賃設定：1乗車につき200円～300円

路線名	経路	運行回数	25年度利用者 (H24)	25年度補助額 (H24)
衣里線	古都の遊食～イオン前沢店	月～金1日6.5回	5,860人 (6,490人)	5,911千円 (4,016千円)

【タクシー車両】

- 運行開始：平成22年
- 事業運営：市が民間事業者に事業運営を依頼。収支の差額を市が補助する。
- 事業者：有限会社衣川タクシー
- 運賃体系：ゾーン制（ゾーンを跨いで利用すると料金が加算される）
- 運賃設定：1乗車につき200円～500円

路線名	経路	運行回数	25年度利用者 (H24)	25年度補助額 (H24)
北股線	大平～古都の遊食	月～金1日4.0回	2,636人 (3,170人)	6,060千円 (7,129千円)
南股線	黒滝温泉～古都の遊食	月～金1日4.0回		

カ 水沢街なか循環バス【水沢区内運行】

水沢区中心市街地の往来を活発化させ、活気あるまちづくりを進めるため、民間事業者に依頼し、胆沢病院、水沢病院と水沢区の中心市街地を結ぶ循環型バスを運行している。

平成22年1月から本格運行に移行したが、利用状況が減少傾向にあり、商店街等で更なる利用を促す何らかの工夫が望まれる。

- 運行開始：平成21年
- 事業運営：市が民間事業者に事業運営を依頼。収支の差額を市が補助する。
- 事業者：岩手県交通株式会社
- 運賃体系：定額制
- 運賃設定：1乗車につき200円

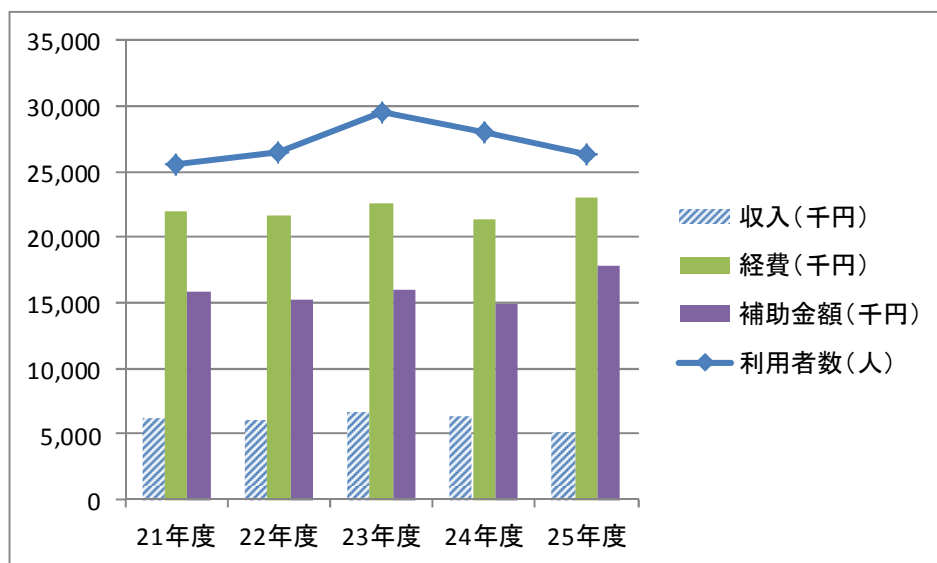
路線名	経路	運行回数	25年度利用者 (H24)	25年度補助額 (H24)
—	胆沢病院～水沢駅通り～胆沢病院	月～金1日7便	8,421人 (9,310人)	4,392千円 (4,617千円)

(2) 課題

- ・運行コストの削減に努力しているが、利用者の減少により、市負担額が増加傾向にある。
- ・民間バス路線が廃止された場合、コミュニティバス又は補助等による路線の確保対策が必要である。
- ・合併前の旧市町村で行っていたバス事業は、それぞれ運行システム、運営方法、根拠法令及び地域事情が異なっており、また、市域が広いため単純に統一することは難しいが、今後、市として基本的な方針を明確にし、各地域にふさわしい運行システムを検討することが必要である。

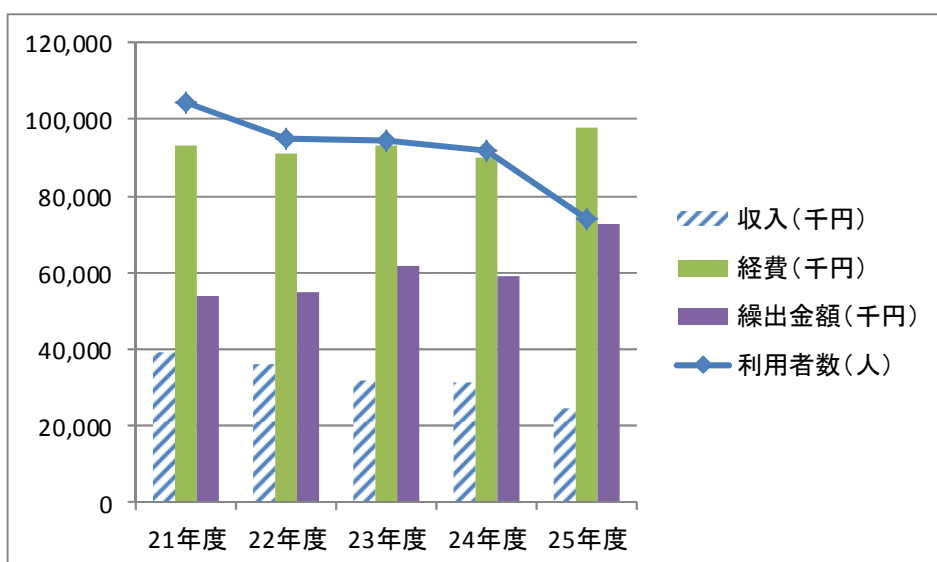
(3) コミュニティバスの過去5年間の利用実績及び市負担額

ア 水沢コミュニティバス



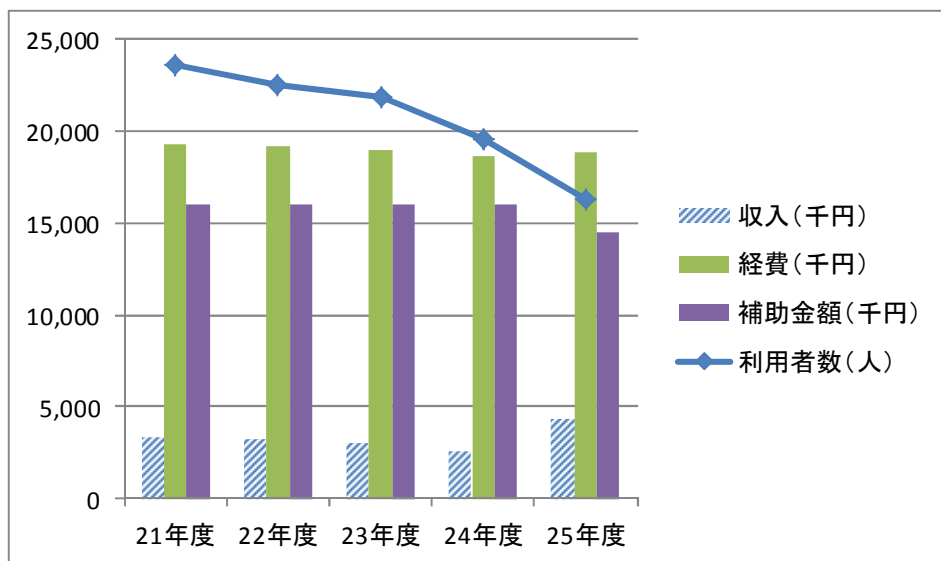
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	25,540	26,443	29,523	27,952	26,352
収入(千円)	6,220	6,109	6,627	6,421	5,122
経費(千円)	22,006	21,608	22,581	21,360	22,997
補助金額(千円)	15,786	15,284	15,954	14,939	17,875

イ 奥州市営バス



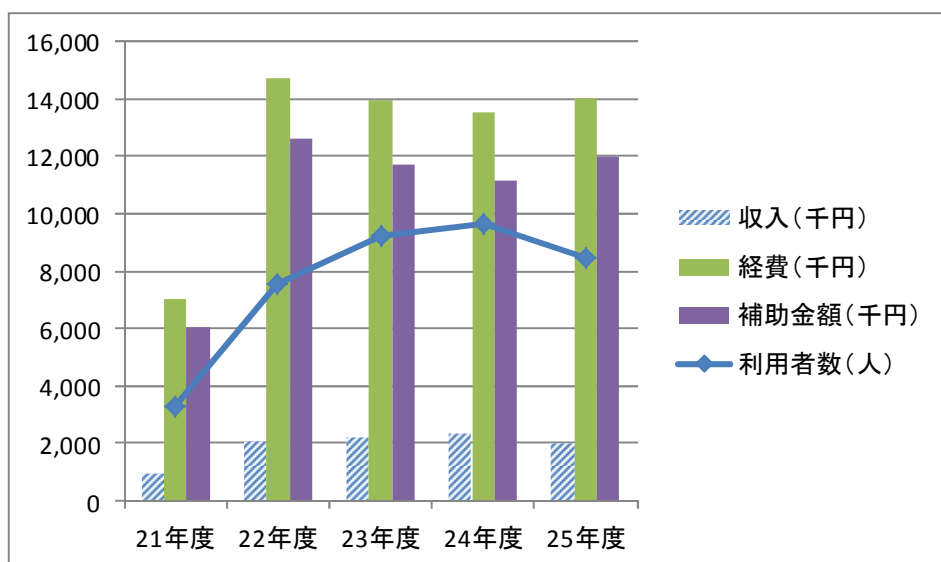
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	104,673	94,736	94,681	92,028	74,115
収入(千円)	39,102	36,050	31,928	31,139	24,717
経費(千円)	93,017	91,077	93,388	90,200	97,647
繰出金額(千円)	53,915	55,027	61,460	59,061	72,930

ウ 前沢バス



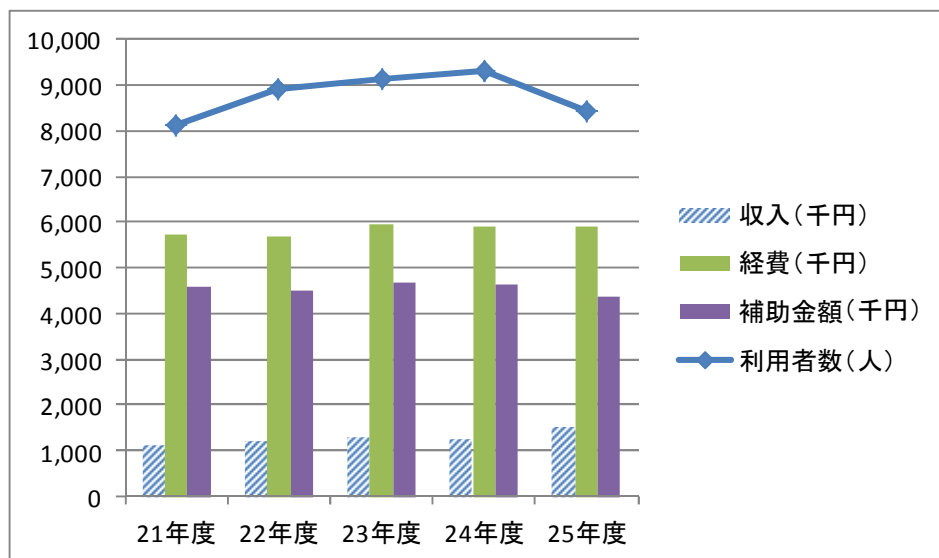
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	23,559	22,522	21,869	19,619	16,325
収入(千円)	3,340	3,211	2,990	2,600	4,360
経費(千円)	19,340	19,216	28,992	18,600	18,860
補助金額(千円)	16,000	16,000	16,000	16,000	14,500

エ 衣川コミュニティバス



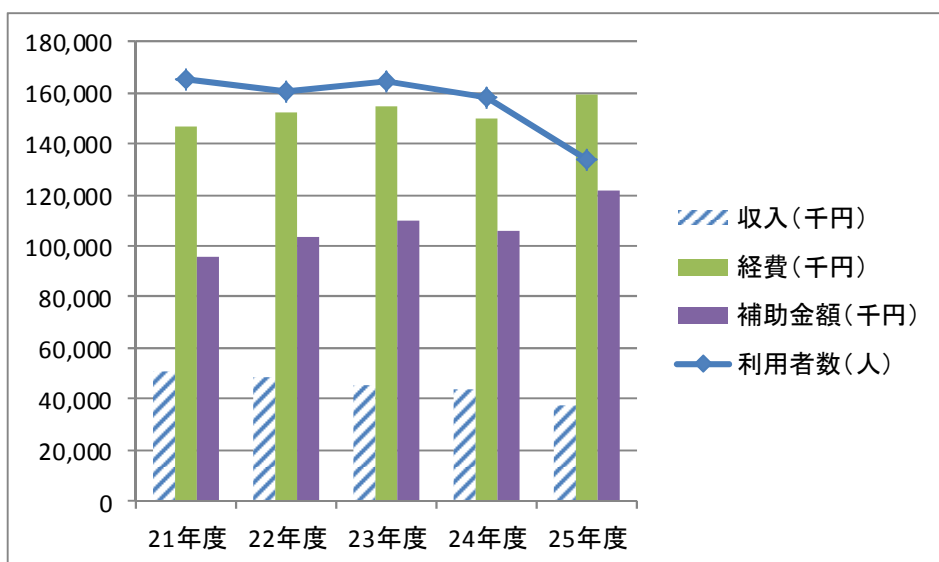
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	3,283	7,548	9,213	9,660	8,496
収入(千円)	992	2,110	2,237	2,372	2,035
経費(千円)	7,026	14,744	13,974	13,517	14,006
補助金額(千円)	6,034	12,634	11,737	11,145	11,971

オ 水沢街なか循環バス



	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	8,128	8,934	9,154	9,310	8,421
収入(千円)	1,129	1,215	1,291	1,277	1,518
経費(千円)	5,726	5,696	5,956	5,894	5,910
補助金額(千円)	4,597	4,481	4,665	4,617	4,392

カ コミュニティバス全体



	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
利用者数(人)	165,183	160,183	164,440	158,569	133,709
収入(千円)	50,783	48,695	45,073	43,810	37,752
経費(千円)	147,115	152,341	154,891	149,571	159,420
補助金額(千円)	95,612	103,426	109,816	105,762	121,668

4 その他の市の輸送事業の現状

(1) スクールバス

遠距離通学（通園）者の通学（通園）手段確保のため運行している。

実施地域	経路	運行委託先等	25年度利用者数	25年度委託料等
水沢区	水沢南中～2コース	早池峰バス(株)	17,952名	73,387千円
江刺区	江刺南中、江刺東中、江刺第一中、伊手小、人首小～12コース	早池峰バス(株)	122,294名	
前沢区	前沢中～2コース	(有)胆沢交通	53,448名	7,387千円
〃	前沢東・南・北幼稚園～3コース	直営	63,384名	8,971千円
胆沢区	胆沢第一小、胆沢愛宕小、小山西幼稚園、小山東幼稚園～8コース	(有)胆沢交通	121,360名	25,866千円
〃	小山西幼稚園、小山東幼稚園、南都田幼稚園、若柳幼稚園～4コース	直営	53,158名	8,678千円
衣川区	衣川中、衣川小～4コース	直営	30,450名	2,741千円
〃	衣川中～1コース	(有)カンコ-開発	18,676名	1,351千円

※詳細の内訳は、20ページ参照

(2) 患者輸送バス

医療機関への交通手段確保を目的とし、江刺区の一部、胆沢区、衣川区では無料バスを運行している。そのため、同じ市内でも、医療機関へ行くのに無料バスがある地域もあれば、コミュニティバス等で片道500円掛けないと行けない地域もあり、地域間格差が生じている。

実施地域	経路	運行回数	運行委託先等	25年度利用者数	25年度委託料等
江刺区	米里診療所～2コース	月2回	直営	22人	燃料費のみ
胆沢区	達者の里～3コース	1日2回	直営	4,989人	1,935千円
〃	達者の里～6コース	1日2回	(有)胆沢交通	5,780人	10,151千円
衣川区	衣川診療所～5コース	週3回又は2回	直営	9,020人	4,117千円

※詳細の内訳は、21ページ参照

(3) 移動支援事業（個別移送型）

障害者自立支援法の制定に伴い、屋外での移動が困難な障がい者等について、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加を促すことを目的に行われている。

事業運営及び車両運行は、市が社会福祉法人等に委託し、奥州市障害者等移動支援実施要綱に基づき有償移送サービスを行っている。

実施地域	経路	運行回数	運行委託先	25年度利用者数	25年度委託料等
市内	必要に応じて	138回	5箇所	138人	522千円

(4) 移動支援事業（車両移送型）

障害者自立支援法の制定に伴い、屋外での移動が困難な障がい者等について、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加を促すことを目的に行われている。

奥州市社会福祉協議会が定める重度障害者移動支援事業「おでかけ援助サポート」実施要綱に基づき、無償での移送または貸出を行っている。

実施地域	経路	運行回数	運行委託先	25年度利用者数	25年度委託料等
市内	必要に応じて	1月2回まで	奥州市社会福祉協議会	65人	320千円

(5) 福祉乗車券

障がい者を対象に、福祉乗車券（小型タクシー・バス併用、リフトタクシー）を交付している。

助成額は、小型タクシー・バス併用は年に14,400円まで、リフトタクシーは年に28,800円までとなっている。

実施地域	小型タクシー・バス 25年度交付枚数	リフトタクシー 25年度交付枚数	25年度事業費
市内	72,562枚	11,448枚	12,325千円

(6) 外出支援サービス事業

身体障がい者や要介護者など公共交通の利用が困難な方に対する有償送迎サービス。

市が奥州市社会福祉協議会に事業運営及び車両運行を依頼している。

実施地域	経路	使用車両	25年度利用者数 (延べ)	25年度委託料等
前沢区	輸送の発着地のどちらかが前沢区内	4人乗り2台	622人	4,419千円
胆沢区	輸送の発着地のどちらかが胆沢区内	8人乗り1台	183人	
衣川区	輸送の発着地のどちらかが衣川区内	4人乗り2台	40人	

5 その他の公共交通の現状と課題

(1) タクシー

- ・乗車距離に応じて料金が小刻みに加算されていくのは路線バスと同じであるが、初乗り料金等バスに比べて割高となっている。
- ・利用者の減少や事業費の増大等、タクシー業界もバスと同様の問題を抱えている。
- ・日中の客層がバスと重複することから、バス事業の再編が、内容によってはタクシー業界への圧迫となる。

(2) 鉄道

- ・公共交通を使って市外へ移動する場合の主要手段である。
- ・東北本線の盛岡・一関間が上り下りとも概ね1時間に1便の運行であり、増便が望まれている。

(3) NPO

- ・サポートセンターNPO えさしが自家用自動車（白ナンバー）を活用し、交通不便地域の高齢者などに有償送迎サービスを実施している。

Ⅲ バス交通計画

1 バス交通計画の区域

本計画は、奥州市全域を対象とする。

2 バス交通計画の期間

本計画の期間は、平成26年度から平成31年度までの6年間とする。

3 バス交通計画の基本方針

(1) 高齢化社会に対応した交通手段の確保

高齢者など自ら移動手段を持たない交通弱者にとって路線バス等の公共交通は、日常生活に必要な交通手段である。公共交通を市民が生活を営む上で最低限必要な条件の一つと位置付け、市民誰もが住みよさを実感でき、安心して暮らせる地域をめざして、交通手段の確保に努める。

(2) 持続可能な公共交通体系の確立

市が主体となって運行しているコミュニティバスは、利用者の減少等により、年々市の財政負担が増加している。

また、民間バス路線の廃止に伴い、市の財政負担により維持しなければならない路線があり、今後も増える可能性がある。

しかし、厳しい財政状況の中、持続可能な公共交通を実現していくためには、市の財政負担を抑制する努力が必要であり、「受益と負担」についても考慮しながら、住民と地域が支え合う持続可能な公共交通体系の確立に努める。

4 バス交通の整備の方向性

(1) 広域交通を担う民間路線バスの確保

総合病院、高等学校、本市中心市街地等への移動手段となっている市内の自治区間又は本市と他市町を結ぶ広域路線バスは、既存の民間路線バスを基本とし、維持・確保に努める。

(2) 市民生活を確保するコミュニティバスの運行

各自治区で運行しているコミュニティバスは、地域住民の通院、買物、通学等の最低限の移動手段を確保するため、自治区間のサービス水準の公平性に配慮しながら現行の運行形態を基本に運行を継続するが、並行して市全体の交通体系の検討も行う。

(3) 利用促進と収益の確保

公共交通維持のためには、一定程度の利用者確保が必要であるため、様々な要因から利用者減少に歯止めがかからない中、公共交通に関する情報（時刻表、路線図や定期券等購入方法など）をわかりやすく定期的に提供する。

また、地域の実情に合った運行頻度の設定や車両の小型化なども検討するとともに、車両広告等による新たな収入源の確保にも努める。

(4) 安全・安心で、利便性の高い運行の推進

市、バス事業者等関係機関・団体が連携し、安全・安心な運行に努め、今後も進む高齢化社会に対応していくため、可能な限り低床バス（ノンステップバス）等の導入に努める。

(5) 市民自ら利用し、維持するバス交通の確立

住民、事業者、行政が協働で公共交通サービスの検討や協議を行うなど、一体となって維持継続を図る意識の醸成に努める。

5 バス路線維持の方向性

(1) 民間路線バス

バス事業者と連携を密にし、現状の路線維持を目標とするが、路線、運行頻度、運行時間等利用者の需要に応じた運行内容を随時検討する。

また、補助要件割れしている路線や補助要件割れの可能性のある国庫補助路線については、関係者と利用促進策の検討や補助路線から外れた場合の対策の検討を進める。

市単独補助路線についても現状のまま維持することを基本とするが、コミュニティバスとの重複する路線や、運行頻度などの検証を行い、コミュニティバスへの移行も含め効率的な運行内容の検討を行う。

(2) コミュニティバス（廃止路線代替バス含む）

市民の日常生活の移動手段を確保することが基本であるが、今後も利用者の減少が予想される中、市の公共交通を持続させるためには市の財政負担を一定程度に抑える必要があるため、利用者が少ない路線については、廃止も含め見直しを行っていく必要がある。

そのため、バス利用状況調査を随時実施して実態把握に努め、次の基準に基づき随時見直しを行う。

【コミュニティバスの見直し基準】

(1) 土日・祝日の原則廃止

利用目的の多くが通院で、土日・祝日の利用は平日に比べて低調であるため、原則廃止とする。

①日・祝日については、平成25年度は1日2往復を基本として運行したが、1便あたりの平均利用者が1.5人未満の場合は廃止することとし、以後の年度においても同様とする。

②土曜日については、日・祝日の廃止後に利用状況を把握し、1便あたりの平均利用者が1.5人未満の場合に廃止する。

(2) 乗車率の低い便（平日）の運休

乗降調査で1便あたりの平均利用者が1.5人未満の場合は、翌年度詳細を調査し運休を検討する。ただし、これを適用すると便数が大幅に減少する路線については、人口集積等の地域事情を考慮することとする。

(3) 経路の効率化等（随時）

利用者ニーズの低い区間の休止や切り替え、複雑で分かりにくいルート of 整理をする。

(4) 乗合タクシーの導入

乗降調査で路線の最大乗車人数が9人以下の場合は、翌年度詳細を調査し導入を検討する。

【1便あたりの平均利用者1.5人未満について】

前計画期間中の平成24年度に決定した見直し基準で採用した数字であり、平成25年4月から適用しているものである。

前計画では、平均乗車密度（起点から終点まで通して何人乗ったか）が0.5人未満の路線について廃止を含めて見直しをすることにしていた。

平均乗車密度は、1つの路線の1年分の運賃収入や走行キロで計算するため、1便ごとの数値が出せないことから、路線全体で廃止を判断しなければならなかった。

しかし、路線全体で廃止にすると、サービスが大きく低下することになるため、1便ごとの平均利用者数（乗車距離に関わらず何人乗ったか）を根拠とし、路線の中の1便ごとに判断することとした。

平成24年度に見直し基準を決める際に、平成23年度のコミュニティバスの乗降調査の結果を基に平均利用者数と平均乗車密度の関連を計算したところ、平均利用者数が平均乗車密度の約3倍であったことから、前計画の基準としていた平均乗車密度の0.5人に相当する平均利用者数1.5人を1便ごとの廃止等を判断する基準としたもの。

6 その他

路線バス利用の促進、路線バスとの競合の解消及びサービスの公平性の確保を図るため、コミュニティバスと患者輸送バスとの一元化について検討を行う。

参考資料

1 スクールバスの実績

実施地域	経路	運行委託先等	25年度利用者数	1日の人数×一日の回数×登校日	25年度委託料等
水沢区	水沢南中～二渡	早池峰バス(株)	9,792	24名×2回×204日	73,387千円
"	水沢南中～吹張	"	8,160	20名×2回×204日	
江刺区	江刺南中～千刈田	"	12,586	31名×2回×203日	
"	江刺東中～三の関	"	10,150	25名×2回×203日	
"	江刺東中～四ツ嵐	"	7,714	19名×2回×203日	
"	江刺東中～赤部	"	3,654	9名×2回×203日	
"	江刺東中～滝の沢	"	4,060	10名×2回×203日	
"	江刺東中～米里太田	"	6,090	15名×2回×203日	
"	江刺東中～古歌葉	"	8,526	21名×2回×203日	
"	江刺第一中～歌読	"	12,710	31名×2回×205日	
"	江刺第一中～江雲橋	"	18,860	46名×2回×205日	
"	伊手小～岩明	"	15,504	38名×2回×204日	
"	人首小～北新田	"	15,912	39名×2回×204日	
"	人首小～砂子沢	"	6,528	16名×2回×204日	
前沢区	前沢中～区内	(有)胆沢交通	29,376	72名×2回×204日	7,387千円
"	前沢中～区内	(有)胆沢交通	24,072	59名×2回×204日	
"	前沢東幼稚園～区内	直営(2台)	10,908	27名×2回×202日	3,100千円
"	前沢南幼稚園～区内	"	31,416	77名×2回×204日	2,810千円
"	前沢北幼稚園～区内	"	21,060	54名×2回×195日	3,061千円
胆沢区	胆沢第一小～大畑平	(有)胆沢交通	11,774	29名×2回×203日	25,866千円
"	胆沢第一小～二の台	"	16,646	41名×2回×203日	
"	胆沢第一小～東柴山	"	17,458	43名×2回×203日	
"	胆沢第一小～駒込	"	21,518	53名×2回×203日	
"	胆沢第一小～下笹森	"	22,736	56名×2回×203日	
"	胆沢第一小～下笹森	"	10,150	25名×2回×203日	
"	胆沢愛宕小～若柳	"	14,210	35名×2回×203日	
"	小山西幼稚園～小山東幼稚園	"	6,868	17名×2回×202日	
"	小山西幼稚園～区内	直営	8,442	21名×2回×201日	2,035千円
"	小山東幼稚園～区内	"	19,796	49名×2回×202日	2,275千円
"	南都田幼稚園～区内	"	16,800	42名×2回×200日	2,218千円
"	若柳幼稚園～区内	"	8,120	20名×2回×203日	2,150千円
衣川区	衣川中～外の沢	直営	3,248	8名×2回×203日	869千円
"	衣川中～餅転	"	7,308	18名×2回×203日	629千円
"	衣川中～滝の沢	(有)サソコ-開発	18,676	46名×2回×203日	1,351千円
"	衣川小～外の沢	直営	9,744	24名×2回×203日	673千円
"	衣川小～餅転	"	10,150	25名×2回×203日	570千円

2 患者輸送バスの実績

実施地域	経路	運行回数	運行委託先等	25年度利用者数	25年度委託料等
江刺区	古歌葉～米里診療所	月2回	直営	22人	燃料費のみ
〃	学間沢～米里診療所	〃	〃		
胆沢区	南都田～達者の里	1日2回	〃	4,989人	1,935千円
〃	若柳～達者の里	〃	〃		
〃	二の台～達者の里	〃	〃		
〃	萩森・中沢～達者の里	1日2回	(有)胆沢交通	5,780人	10,151千円
〃	徳岡～達者の里	〃	〃		
〃	柳田～達者の里	〃	〃		
〃	萩ノ窪・笹森～達者の里	〃	〃		
〃	新里・南下幅・都鳥～達者の里	〃	〃		
〃	前田・兎口・愛宕・出店～達者の里	〃	〃		
衣川区	北股～衣川診療所	週3回	直営	9,020人	4,117千円
〃	南股～衣川診療所	〃	〃		
〃	衣里～衣川診療所	〃	〃		
〃	滝の沢～衣川診療所	週2回	〃		
〃	夏梨・日向～衣川診療所	〃	〃		

3 バス乗降調査結果

目 的：市が事業費を補助しているバス路線等の利用状況を把握し、今後の公共交通対策への参考とするため。

実施時期：〔1回目〕平成25年6月10日～6月23日

：〔2回目〕平成25年9月30日～10月13日

※衣川バス（タクシー車両分）については、6月及び10月のそれぞれ1カ月

実施路線：水沢コミュニティバス、前沢バス、衣川コミュニティバス、街なか循環バス、奥州市営バス、岩手県交通8路線、東磐交通1路線

調査結果：次頁以降に掲載